　多目的室　(５年１組)

**６　本時の展開 （５／５）**

**（１）ねらい**

　　・大きなけがが起こったときに、自分に何ができるのかを考え、働きかけられるための知識を得る。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点  ■評価（評価方法） |
| ○前時までの振り返りをする。  　・簡単なけがの手当てならば、自分でもできそうだ。  　・けがの手当ては難しかったけれど、自分や自分の周りの人の安全を考えると、もっと上手にできるようになりたい。  大きなけがが起きたときの救命方法について学ぼう。  ○救命が必要な場合についてイメージする。  　・簡単なけがの手当てだけではだめだろう。  　・意識を失ってしまった人がいたら、どうすればいいのだろう。  　・人が急に倒れたら、慌ててしまうだろう。  　・自分にできることは、どんなことだろうか。  ○大きなけがが起きた時に、自分にできることを考える。  　・周りの人に知らせる。  　・助けを求める。  　・通報する。  　・手伝いをする。  ○心肺蘇生とＡＥＤについて学ぶ。  ○実技を行う。  　・通報  　・呼吸の確認  　・胸骨圧迫  　・ＡＥＤ使用  ○本時の学習で学んだことを書く。 | ◎前時に学習した簡単なけがの手当ての仕方を想起できるようにする。  ◎身近で起こり得る具体的は場面を設定することで、自分の事として考えられるようにする。  ◎あきらめる前に自分にできることもあるという視点で考えられるようにする。  ◎周囲の人に助けや協力を求めることも、救命の大切な行為の一つであることを押さえる。  ■自分にできることを考えている。（発表）    ◎救命が必要な場面で求められることを理解できるようにする。（通報の仕方・救急車到着までにしておくべきこと）  ◎救命の大切さについて押さえることで、心肺蘇生やＡＥＤについて学ぶ意欲付けができるようにする。  ◎心肺蘇生とＡＥＤについては、ＧＴから学ぶ。  ◎心肺蘇生については、模型をもとに一人一人実技が行えるようにする。  ◎ＡＥＤについては、概略を押さえるようにする。  ◎心肺蘇生とＡＥＤ共に、救命に関する手だてであるので、普段の生活で遊び半分に行うことではないことを押さえる。  ■自分にできる救命方法について、まとめることができる。（ワークシート） |